

水でたどる歴史とあゆみ

消火栓

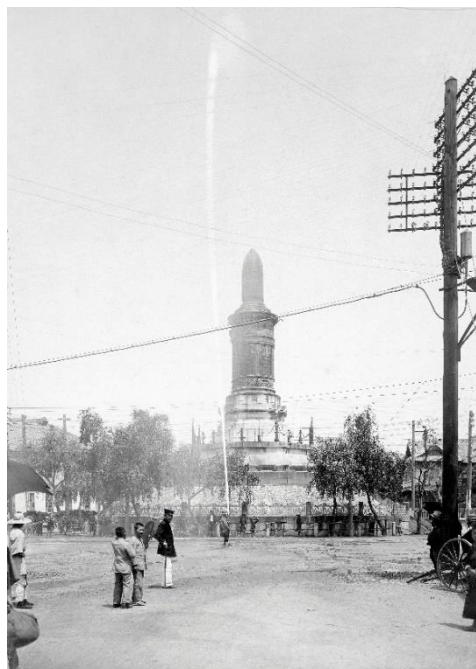


まちを歩いていて目に入る「消火栓のふた」、火事の際に火を消すためにあることは知っていても消火栓本体を見る機会はありません。地下にある巨大な蛇口のような構造で、特殊な器具で操作します。「市町村は消防用の為に消火栓を設置すべし。」(明治23年水道条例)とあるように、有圧の近代水道は衛生面と合わせて消防水利としても期待されていました。



写真左；消火栓本体（昭和12年製）と給水開始100周年記念のふた

写真右；給水開始前の大正3年3月、武平町における消火栓放射試験の様子



名古屋市の歴代マンホールのふた

車道用ふた

昭和52年10月から採用されました。材質や構造が強化されており、合流式区域の車道部分および分流式区域における雨水管の車道部分に使用しました。旧型と比べ穴が小さくなり、ふたが飛ばされないように蝶番ちょうつがいも付きました。



水の歴史資料館
HISTORICAL MUSEUM OF WATERWORKS AND SEWERAGE

開館時間：午前9時30分～午後4時30分
休館日：月曜日（休日の場合は直後の平日）
館内展示内容やイベント情報の詳細はHPへ！